

たくさんの方に伝えたい 「戦死者からのメッセージ」



武田美通・鉄の造形
「戦死者たちからのメッセージを広める会」
事務局長

仲内 節子さん

プロフィール 東京都渋谷区で生まれ育つ。蕨市議会議員を4期16年。武田美通・鉄の造形「戦死者たちからのメッセージ」を広める会事務局長、商社九条の会・東京、わらび9条の会世話人、NPO法人・温個知心の会理事。国会前3日アピール（アベ政治を許さない）を引き継ぐアピールのスタッフとしても活動中。

地域のひとたちとかかわるなかで蕨市議会議員選挙の候補者になってほしいと要請されたのは、1983年の統一地方選挙のときです。みなさんのおかげで当選することができました。それから4期16年、市議会議員をつとめました。

市議会議員時代のできごとで印象に残っていることのひとつは、「平和都市宣言」です。蕨市が「平和都市宣言」を制定したのは1985（昭和60）年9月です。埼玉県内では3番目でした。当時、私は市民のみなさんといっしょに蕨市に「平和都市宣言」の制定を求める署名活

市議会議員として

私は東京都渋谷区の笹塚で生まれ、育ちました。高校を卒業後、商社に就職し

ました。東京から蕨市に引っ越してきたのは1973年です。当時もいまも商社は女性差別が強く、その解消のためには働きつづけることが大事だと思い、2人の子育てをしながら19年間働きました。本当は「教師になりたいくて」学資稼ぎの就職ではあったのですけれど。

動をしました。宣言は市長が議会で提案し、全会一致で可決されました。暑いなかでの行動はとても大変でしたが、私にとっては感動的な成果でした。

もうひとつはマンシヨンの建設反対運動です。はじめの頃は何人も市議が運動に加わっていましたが、最後まで反対したのは私だけでした。マンシヨンの建設計画があきらかになったのは私がまだ1期目の頃です。わからないこともたくさんあったのですが、自分なりに必死に勉強してがんばってきました。2期目の選挙中に建設予定地で街頭演説をおこな



「残された数秒の母のいのち」手に握った手榴弾（日本軍のもの）の安全ピンはすでに抜かれている。4秒後には爆発して母子は肉片となって飛び散る。戦火に追いつめられた民間人が自決していく姿はサイパン島で沖縄で、中国大陸で、多数見られた（武田美通作品集より）

ったときには、近所に住んでいる市民の方たちがたくさん外に出てきて激励してくださったのを覚えています。マンシヨンは3年間建てさせませんでした。その後、8階建ての計画が7階建てに変更されました。これも成果のひとつです。市民のみなさんの代表として、やるべき仕事ができただけではないかと思っています。

市議会議員をやめたあとも、いろいろな市民運動にかかわってきました。2011年に福島第一原発事故が起こったあと、2021年3月まで400回おこなわれた反原発デモには、ほぼ毎週参加していました。

武田さんとの 出会い

たけだよしちか
武田美通さんは1935（昭和10）年

に北海道小樽市で生まれました。国民学校の4年生のときに敗戦を経験しています。武田さんは早稲田大学で社会学を学び、日本経済新聞の記者として10年勤務したあと、テレビ東京に勤務しました。海外

取材を含めて36年間、ジャーナリストとして活動しましたが、とくに「戦争とは・国家とは・軍隊とは」という少年期からのテーマをもとに、アメリカ海兵隊や自衛隊の取材に力を入れました。

武田さんは60歳を前に造形作家への道を歩み出しました。当初は音楽家や鳥、花などの作品をつくっていました。しかし、日本がふたたび「戦争する国」になるのではないかとという兆しが見えはじめた頃から15年間にわたって「戦死者からのメッセージ」の制作にとりくみ、2016（平成28）年に80歳で亡くなりました。私は、武田さんが遺した作品を広げる活動をつづけています。

2004年4月4日付けの東京新聞に掲載されていた武田さんの記事を読み、工房を訪れたのが武田さんとの出会いです。工房ではじめて見た作品に大変な衝撃を受けました。鉄や皮、布、金属などを使った質感の描き方がすばらしく、まるでそこに本当に戦死した兵士の骨があるように感じましたし、あまりのリアルさに目を背けたくもありません。

武田さんの作品は、非常にリアルなものと、象徴的に描かれたものの二通りの作風があります。象徴的に描かれた作品



「歌い継ぎ、語り継ぎゆかん 沖縄戦の地獄を」
(武田美通作品集より)

のひとつが「残された数秒の母子のいのち」(5ページ)です。一般的にはこういった作品が受け入れやすいのではないのでしょうか。私は武田さんのリアルな作品を見たひとたちはどう感じるだろうかと考えました。そこで、地域の友人たちや学生時代の友人たちなどを誘い、違うメンバーで複数回にわたって工房通いをしました。作品を見た友人たちはみんな一様に衝撃を受け、「これはたくさんひとに見てもらったほうがいい」という声があがりました。友人たちの意見に私は確信を持ち、2004年の11月に蔵駅近く

の喫茶店のギャラリーで第1回の「戦死者たちのメッセージ展」を開催しました。翌2005年に開催した東京での作品展は、NHK「おはよう日本」とTBS「関口宏のサンデーモーニング」で取り上げられ、大変大きな反響を呼びました。

2007年、武田さんが美術を受けることになったことをきっかけに、当時つくられていた13〜14作品を私たちの会が購入し、そのあとにつくられた作品も譲り受けることになりました。私たちに作品を託してくれたのだと思います。

日本兵は 「普通の市民」

2018年の8月には沖縄県立博物館の美術館県民ギャラリーで作品展を開催しました。実は、その前年2017年に沖縄を訪れた際に出会った方たちに武田さんの作品を紹介したのです。沖縄のひとたちにとって日本軍の兵士は加害者でもあることを考えると、沖縄で作品展はできないだろうと武田さんも私も考えていたのですが…。パンフレットを見た方

たちから「いまこそ沖縄のひとたちに見てほしい作品だ」と言われました。私は半信半疑でしたが、再度沖縄へ行き、作品展開催の可能性を探りました。数十人の方にお会いして話をしましたが、どの方も反応がよく、「これならできる」と思っています。翌年の作品展をみんなで実現させたのです。

作品を見て怖がるひともいますが、武田さんはそういったひとによく「怖く見えますか？でも本当は怖くないんですよ。よく見るとやさしい顔をしてるでしょう？」と声をかけていました。「声をかけてあげてください」「対話してみてください」とも言っていました。作品を「兵士の骸骨」だと思って見るとたしかに怖いかもしれませんが、拒絶反応もあるかもしれない。私も最初はそうでした。でも、その兵士は「やさしい顔をした若者」なんです。武田さんにとっては、兵隊にとられ、帰ってこなかった近所のおじさん、おにいさんなんです。沖縄の作品展に来てくださった方々のアンケートを読んでいたなら、「日本兵も一市民だったんですね」と書いてくださった方がいました。私はそれを読んで「武田さんの思いが伝わった」と思いました。戦場に行かなければ

彼らは普通の市民だったわけです。「誰が戦争に駆り立てたのか」ということを、武田さんの作品が問いかけているのです。沖縄で作品展を開催することで、さらに作品に確信を持つことができました。

作品展や保存にご協力ください

今後は、全作品を展示する作品展を関東近辺でキャラバンの開催したいと思っています。現在、恵泉女学園大学で作品の保管をしてもらっていますが、閉校



「希望く命は受け継がれて」(武田美通作品集より)

が予定されていますので、新たな保管場所を探しています。たくさんの方の力がが必要です。そのためにまずは作品を知ってもらうことが重要です。

最終的には常設展示ができる施設をつくれるといいのですが、そのためにはお金も人手も必要です。私と同世代のメンバーで活動していますので、長期に作品を保存して展示していくためには、世代を超えた体制をつくらなければいけません。武田さんの作品は、非常にメッセージ性が高いものです。だからこそ、埋もれさせたりつぶしてしまうことがあってはいけないと思っています。

未来を育てる 尊い仕事

教員をめざしていたこともありましたが、いま教員として働くみなさんのことをとてもうらやましく思います。教員は、ひとに影響を与えることができる、すばらしい仕事だと思います。子どもたちの未来を育てる仕事ですので、ぜひ秀れた芸術に触れて感性ゆたかになってほ

しいですね。

私は終戦後に生まれて、サンフランシスコ条約が結ばれた1952(昭和27)年に小学校に入学しています。焼け跡で、二部授業を受けていました。教育資料は非常に貧しい時代でしたが、先生方はとてもいきいきしていました。4年生から6年生まで3年間教えてくれた男性の先生が「これからは女の子も能力をいかせる時代になる。女の子たちもがんばれ」と言い続けてくれたことに、とてもはげまされました。高校生のときの生物の先生には「人間は労働によって人間になった」と教えてもらいました。そういった先生方の影響を受けて、いまの私がいるのだと思っています。くやしいことや大変なことたくさんあるけれど、「なんとか生きていこう」という前向きな人間になれているのは、出会った先生方の影響が強いです。私が出会ったような先生が1人でも増えるといいなと思います。教えたことが子どもたちの生き方に反映されていくという、とても尊い仕事をしているということを心に刻んで、力を尽くしていただきたいと思います。そして、なによりも平和といのちを守るための教育を大事にしてほしいと願っています。